

公共施設FM研究部会

トークセッション

公共FMの今!

国からの策定要請の先に

国から公共施設・インフラの老朽化対策に関連して、「公共施設等総合管理の策定、統一的な基準による財務諸表の作成(大規模案件におけるPPP/PFIの導入の検討)」と3つの要請がされ、全ての自治体がこの課題と向き合うこととなった。そこではじめて直面するこの大きな課題にどのように対応すれば良いのか、この問題の本質と今後進むべき道について、公共FMの今、国からの策定要請の先について語り合った。

- スピーカー **李 祥準** いさんじゅん
関東学院大学 講師
- 池澤 龍三** いけざわりゅうぞう
一般財団法人建築保全センター 第三研究部 次長
- コーディネーター **菊地 マリエ** きくち まりえ
公共R 不動産

李 祥準：施設マネジメントを研究する中で、各自治体の長期的な視点、コスト認識に欠けており、また多くの自治体が全庁的に統一された考えに成っていない自治体が多く、総合管理計画の策定にあたり、総合評価の知識を付けることが重要である。李先生は、多数の自治体を訪問して気付いたことであると述べていた。これからは施設マネジメントが出来るにはどうすれば良いかを官民連携を含め住民のために考えることが重要であり、これらの問題は李先生が研究する中、日本だけの問題に留まらず、アジア全域の問題である。

池澤 龍三：FMはコスト削減だけが目的ではなく、使用方法、効率化等加味し、総合的な判断が重要である。また効率良く施設の集中化による減築、集中化される。また施設を効率良く集中化させて、施設の減築など行うことができる。これらは公共施設のみでなく、官

安藤 秀徳 あそひでのり

公共施設FM研究部会 部会長
東京美装興業株式会社 技監 事業開発部長



民連携による施設の複合化を考える必要がある。これらの事例が増え確立することにより公共施設の有効活用、活性化へとつながる。事例として長崎市では、学校跡地の公園空間に図書館、ホール、メモリアル、レストラン等を複合的に設置し地域の活性化を行っている。市有財産は行政単独で考えるのではなく、市民の評価が必要となり今後は総合評価の知識が必要である。

菊地 マリエ(コーディネーター)：古く使われていない施設の活性化を行っている。公共施設はあるが活性化のアイデアが少ない状況である。今後人口減少社会となって公共施設が余っていくなか、複数の施設をどのように使っていくか、また単独な施設のみでなく、広域なエリアマネジメントも加味しながら官民連携、市民と考えて推進していく行が重要である。

李先生からの提言

官民連携の注意点

- ◆ 安く出来ると思わないこと
- ◆ 要求仕様の制限を少なくすること
- ◆ 長期にわたる官民連携事業のマネジメントが出来るようにすること
- ◆ 補助金・交付金に頼ろうとしない

池澤氏からの提言

公共施設マネジメントとは・・・

- ◆ 「市」という大きな家族全体の財産をどのように引き継いでいくか
- ◆ 家族(市民)の中で考えていく行動そのもの
- ◆ 行政だけが考えるのではなく、市民が考える体制にシフトチェンジ